慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	シンポジウム : 裁判員裁判における理性と感性 : 裁判長、直感で決めてもいいですか?
Sub Title	Logic and sensibility in trials with lay judges
Author	伊東, 裕司(Ito, Yuji)
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム人文科学分野論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2009
Jtitle	活動報告書 Vol.3, (2009.) ,p.34- 34
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	第2章 : シンポジウム等の活動報告
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002002-20100300-0034

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

10

シンポジウム
裁判員裁判における理性と感性：裁判長、直感で決めてもいいですか？
Logic and Sensibility in Trials with Lay Judges

開催日　2010年１月16日
企　画　伊東裕司（言語と認知班）
講演者　指宿信（成城大学法学部）、高橋雅延（聖心女子大学文学部）、中村國則（東京工業大学大学院）、綿村英一郎（東京大学大学院）松尾加代（慶應義塾大学大学院）ほか

１月16日に、日本認知心理学会と共催で裁判員の判断に関するシンポジウムを開催した。昨年（2009年）より裁判員制度が実施され、8月からは裁判員が参加する裁判（裁判員裁判）が各地の地方裁判所において始まった。法律や裁判に関しては素人である裁判員が、裁判上の判断を的確に行うことは可能なのであろうか。本シンポジウムでは、特に、裁判員が直感に頼ったり、感情に流されたりすることによって、不適切な判断がなされることがないのか、という問題を取り上げた。

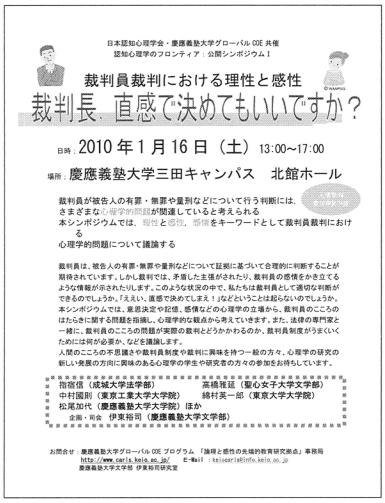
企画者の伊東からの問題提起に続き、綿村英一郎さん（東京大学大学院）と松尾佳代さん（慶應義塾大学大学院）から、自らのデータを中心とする報告が行われ、事件とは無関連であるはずの犯人や被害者についての情報、裁判員の感情を掻き立てるような情報が、実験参加者が裁判員になったつもりで下した判断に影響を与えることが指摘された。続いて、中村國則さん（東京工業大学）は意思決定の心理学の立場から、裁判員に合理的な判断、適切な判断ができるのかという問題を提起し、合理的な判断をしているとは言えないが、案外適切な判断をしているのではないか、という見解を示した。高橋雅延さん（聖心女子大学）は記憶心理学、感情心理学の立場から、感情によって人間の記憶や判断が大きく左右されることを様々な実験の例を示しながら論じた。

本シンポジウムでは法律関係のスピーカーの参加も得た。指宿信さん（成城大学）ほかが刑事訴訟法や法実務の立場から裁判員の心理を研究する必要があることを指摘した。いずれも公平な裁判を実現するためには裁判員の感情の働きなどについての理解に基づき制度を考えていく必要があることを指摘した。

最後にフロアも交えて討論が行われ、裁判員裁判における理性と感性という問題が、応用的に重要であるだけでなく、基礎研究の見地からも興味深く重要な問題であることが示された。

（伊東祐司）

A symposium titled “Logic and Sensibility in Trials with Lay Judges” was held. Effects of emotion on and irrationality of latent lay judges’ judicial judgment were discussed.


日本認知心理学会・慶應義塾大学グローバル COE 共催
認知心理学のフロンティア：公開シンポジウム I

裁判員裁判における理性と感性
裁判長、直感で決めてもいいですか？

日時：2010 年 1 月 16 日（土）13:00〜17:00
場所：慶應義塾大学三田キャンパス　北館ホール

裁判員が被告人の有罪・無罪や量刑などについて行う判断には、
さまざまな心理学的問題が関連していると考えられる
本シンポジウムでは、知性と感情、感情をキーワードとして裁判員裁判における
心理学的問題について議論する

裁判員は、被告人の有罪・無罪や量刑などについて証拠に基づいて合理的に判断することが期待されています。しかし裁判では、矛盾した主張がされたり、裁判員の感情をかき立てるような情報が示されたりします。このような状況の中で、私たちは裁判員として適切な判断ができるのでしょうか。「ええい、直感で決めてしまえ！」などということは起こらないのでしょうか。本シンポジウムでは、意思決定や記憶、感情などの心理学の立場から、裁判員のこころのはたらきに関する問題を議論し、心理学的な観点から考えていきます。また、法律の専門家と一緒に、裁判員のこころの問題が実際の裁判とどうかかわるのか、裁判員制度がうまくいくためには何が必要か、などを議論します。
人間のこころの不思議さや裁判員制度や裁判に興味を持つ一般の方々、心理学の研究の新しい発展の方向に興味のある心理学の学生や研究者の方々の参加をお待ちしています。

指宿信（成城大学法学部）　高橋雅延（聖心女子大学文学部）
中村國則（東京工業大学大学院）　綿村英一郎（東京大学大学院）
松尾加代（慶應義塾大学大学院）ほか
企画・司会　伊東裕司（慶應義塾大学文学部）

お問合せ：慶應義塾大学グローバル COE プログラム「論理と感性の先端的教育研究拠点」事務局
http://www.cerla.hiro.ac.jp/　E-Mail：kcoserl@info.keio.ac.jp
慶應義塾大学文学部 伊東裕司研究室